

しらかば

あたたかく かしく たくましく

令和4年1月31日発行 第10号

20年後を想像して

富良野市立山部小学校長 桑原久美

年が明け、気持ち新たに三学期が始まりました。大きな病気や怪我もなく、児童全員が新たなスタートを切れたことをうれしく思います。始業式には、「三学期は1年の締めくくりの時期」という話をしました。学年の始めにもった目標がどれだけ達成できたか振り返ってみること、勉強で分からないまま残した部分がないようにすること、3月最後に一年で自分がこれだけ成長したりできることが増えたりしたことを言えるようにすることを伝えました。やり残しがなく、1年間頑張ったねと言えるようこの三学期も支援していきます。

コロナが終息しかけたと思った年末でしたが、年を明けてオミクロン株の流行で今まで以上の感染者の拡大に恐怖を感じています。子ども一人一人の学びを保障していくことを念頭に、従来と同様に3密の回避、マスクの着用や手洗い、厳寒の冬季ではありますが換気の徹底など、衛生管理マニュアルに基づき感染リスクの拡大を可能な限り低減していく所存です。ご家庭でも、感染予防対策（マスクの着用、手洗い、手指消毒、うがい、換気等）の徹底とともに、健康観察をお願いいたします。

先行きの見えない現在ですが、必ず未来はやってきます。20年後の今の子どもたちは、どのような人生を送っているのでしょうか。27～32才になり、社会人として人の役に立とうと仕事をしているのではないのでしょうか。今のまますぐに20才年を取るわけではないので、学びや成長があつての20年後であることは間違いありません。社会人として必要な力には、右の表のように様々あります。例えば、①人間関係形成・社会形成能力を育てるためには、他者との関わりが必要です。学校では学級の友だちや先生と、放課後子ども教室では他学年の人や地域の指導員の皆さんと、そして子ども会などの様々な行事で地域の方々と触れ合う機会があります。その中で、相手の個性を理解したり、相手に働きかけたり、協力して活動したり、という力を育てていくことが重要となります。これらの力は、自然と身に付くものばかりではありません。時には大人が声をかけ、子ども自身に意識させることが必要です。未来の子どもたちの幸せを願えばこそ、今が大切な時期だということを家庭・地域とともに考えていきたいと思えます。

	内容	具体的な要素
1 社会形成能力 人間関係形成・ 社会形成能力	多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができることに、自分の譲られている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる。 この能力は、社会とのかかわりの中で生活し仕事をしていく上で、基礎となる能力です。	○他者の個性を理解する力 ○他者に働きかける力 ○コミュニケーション・スキル ○チームワーク ○リーダーシップ等
2 自己管理能力 自己理解・ 自己管理能力	自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力。 この能力は、子供や若者の自信や自己肯定感の底上げが期待される中、「やればできる」と考えて行動できる力です。	○自己の役割の理解 ○前向きに考える力 ○自己の動機付け ○忍耐力 ○ストレスマネジメント ○主体的行動等
3 課題対応能力 課題対応能力	仕事をすすめる上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力。 この能力は、自らが行うべきことに意欲的に取り組み上で必要なものです。また、知識基盤社会の到来やグローバル化等を踏まえ、従来の考え方や方法にとらわれずに物事を前に進めていくために必要な力です。	○情報の理解・選択・処理等 ○本質の理解 ○根拠の追究 ○課題発見 ○計画立案 ○実行力 ○評価・改善等
4 キャリア プランニング能力	「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自らの主体的に判断してキャリアを形成していく力。 この能力は、社会人・職業人として生活していくために生きていく上で必要となる能力です。	○学ぶこと・働くことの意義や役割の理解 ○多様性の理解 ○将来設計 ○選択 ○行動・改善等

（文部科学省「小学校キャリア教育の手引き<改訂版>」（平成23年5月））

